

第5回リニアコライダー計画推進委員会議事要録(案)

日 時 平成16年12月20日(月) 10:00~11:40

場 所 国際交流センター 交流ラウンジ1

出席者 小間、神谷、近藤、高崎、宮本、榎本、佐藤、横谷、竹内、尾崎、大森、
生出、吉岡、福田、峠、浦川、松本、早野、肥後、上野、森、山下、金、
中西 各委員
木村監事
(欠席者:小林、黒川、岡田、田内、駒宮、野崎、山本、新竹、西川、山内、
清水、陳、相原、各委員)
オブザーバー 8名

配付資料 1. 第4回リニアコライダー計画推進委員会議事要録(案)
2. アジアにおける今後のILC計画の進め方について
3. 物理測定器関係報告(席上配付)

1. アジアにおける今後のILC計画の進め方について

各委員から、次のとおり報告があった。

- (1) 高崎委員長から、第1回 ILCWS 成功への協力に感謝する。その後、来年度以降の計画について検討し、LC レビュー委員会(委員長 佐藤康太郎、KEK)を開催した。
- (2) 横谷委員から、来年度計画の概要についてレビュー委員会への報告を元に説明。ILCの公式スケジュールでは、Snowmass(2005年8月)に基本パラメーターを決め、2005年中にCDRを2007年中にTDRを書くことになっている。そのために、アジアでは加速勾配35MV/mの確立、高加速勾配の追及、ATFを活用した研究、を重点項目として進めたい。そのために、来年度は旧陽子ライナック棟を活用した、Superconductive Test Facility(STF)の建設とATF2の建設に取り掛かりたい。ATFではILCに不可欠な、ビーム力学・診断・取り出しなどの研究を重点的に行う。ATF2では衝突点でのビーム安定化の研究をTDR以降も継続して進めていきたい。
- (3) 高崎委員長から、日米や機構予算の配分などは、レビュー委員会の報告に基づいて決めていく。2月11~12日にはILCSCが開催されるので、国際協力の提案も持っていく。
- (4) 佐藤委員から、次のとおり、レビュー委員会についての報告があった。

レビュー委員は、安藤愛乃輔(兵庫県立大)、井上信(立命館大)、生出勝信(KEK、欠席)、熊谷教孝(Spring8)、木原元央(KEK)、佐藤康太郎(KEK)、新竹積(RIKEN)、羽島良一(JAERI)、古屋貴章(KEK)、峰原英介(JAERI)、山崎良成(JAERI)、山本明(KEK、欠席)である(敬称略)。

当日の議論に基づきドラフトを作成し、現在文章のまとめ作業中である。レビューはおおよそ、以下の内容でまとめられる予定である。

レビューは、前文と個々の計画の評価からなる。

前文では、「従来のJLC/GLCの進め方の反省点を踏まえ、責任・指導体制を見直す必要がある。」「レビューはもっと早くから取り掛かるべきである。今回の日程は厳しい。」「半年に1度程度レビューを行うべきである。」「研究開発は具体的目標を設定して、進めるべきである。」などが書かれる予定。

個々の計画のレビューに関しては、STF、STF2、ATF、ATF 2 の意義を確認し、計画を推進する内容のレビューになる予定である。

その後、次のとおり、質疑応答が行われた。

高崎委員長：レビュー委員会には真剣な討議をしていただき感謝している。今後もレビュー委員会を継続していきたい。レビューに基づき、日米と機構内予算の申請をする。また、アジアのセンターとしての役割を果たすため、中国高能研、韓国ポーン研究所、及びインドの研究所と ILC 加速器開発のための MOU を結びたい。

榎本委員：STF1 は工業化への着手であり、LC 研究会の企業などと共同して研究を進める。

峠 委員：加速勾配について、欧米では 30~39MeV/m で良いという意見が多いのはどのように評価するか？

横谷委員：パラメータセットの議論は準備段階である。他のパラメータと比べて連続的なパラメータであり、後であげることも可能。TESLA 型ではマージンが少ないと考える。

神谷委員：Euro XFEL は事実上 GO であり、ILC と人と金が重複しているので、ヨーロッパは今後 ILC にどれだけ Commit できるか不明である。

山下委員：アジアの新人の勧誘、養成も重要であるので、外国人用 Post Doc ポストを考えているか？

神谷委員：科研費の枠内で考えている。

2 .次回は、ICFA が2月10～11日に、その前に ILCSC があるので、それにあわせて、開催日を調整することとした。